

ポンチ絵って何？

辻 多聞

皆さんは「ポンチ絵」という言葉を聞いたことがありますか？「ポンチ絵」、なんだかふざけた？ような響きの言葉なのですが、正式なもの（公的に使用されるもの）であり、プロジェクトの申請には、およそなくてはならないものの一つです。

ウィキペディアによると、「ポンチ絵」という言葉は1862年創刊の漫画雑誌「ジャパン・パンチ」に由来するそうです。明治20年くらいまでは、浮世絵や風刺画、現在で言うところの漫画などといったものを指す言葉だったそうです。明治後半にはこれらは「漫画」という言葉に置き換えられていくことになります。ただ「ポンチ絵」という言葉は残り、機械設計などの工業製品の設計図の下書き、概略図や構想図の下書きといった正式ではない簡易な手書きのものに対して使われるようになりました。また各種申請書の事業計画や概要を補足する図に対しても「ポンチ絵」という言葉が使われるようになりました（昔は申請書は文字だけが基本なので図は正式ではない下書きであり、このことから「ポンチ絵」とよばれた）。現在ではPCの発達により、工業製品に対する手書きによる下書きなどは少なくなり、事業計画や概要を補足する図を「ポンチ絵」ということが一般となっています。ただ「ポンチ絵が下書きである」という概念はほとんどなくなり、ポンチ絵の出来栄が申請の可否に大きく影響するようになってきました。ポンチ絵の例は下に示すようなものです。皆さん、必ずどこかで見かけたことがあるはずです。

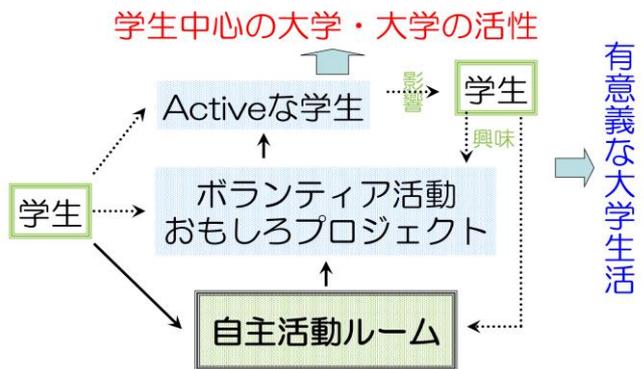
図は非常に多くの情報を提供してくれます。例えば誰もが知っているであろうダ・ビンチの「モナリザ」を正確に、かつ客観的に文字として表現してみてください。重ねている手は右手が上？左手が上？指は曲がっている？伸ばしている？などなど、とてもではありませんが「モナリザ」のキャンバスサイズであるおよそ1m四方の紙では書ききれないことは容易に想像がつくと思います。この例えは非常に極端ではあるのですが、図の持つ情報量の多さをイメージしてもらえれば嬉しいです。

ポンチ絵を使うことで申請書として指定されている限られた紙面を有効に活用することができます。忘れてはいけないのは「ポンチ絵は補足する図である」ということです。ポンチ絵で示しているからといって文章部分にて全く説明しないという申請書では、そのポンチ絵は意味をなさないということです。ポンチ絵を見てもらいながら文章を読んでもらって、「あ、なるほどね」と思ってもらえるのが良いポンチ絵です。昨今、様々なポンチ絵を目にしますが、皆さん凝り過ぎておられるのか、少々分かりにくいものが増えてきているように私は思います（私はポンチ絵マスターではないので、評価できる立場ではないのですが…）。ポンチ絵が示してるものを読み解くのに（理解するのに）10分も20分もかかるというのはどうなんでしょう。ポンチ絵の中の矢印や線が複雑に交差していると分かりにくくなります。また絵の中に示される文字量が多すぎるのも考えものです。使用される線の太さや色、文字のフォントやサイズが、あるアルゴリズムにそっていると分かりやすくなります。この3点がポンチ絵作成時に気を付けるべきことでしょうか。申請書において図に示すもの（図として示したいもの）はたくさんあると思います。一方で提出する申請書の紙面は限られています。全てに対してポンチ絵を付けることはできません。「ここがミソ！」という部分をポンチ絵にして、アピール度の高い申請書を作成するよう心がけてください。

「ポンチ絵」の例

様々な学生が山口大学にはいる。入学時からActiveな学生もいればボランティアにすでに参加しているものいる。自主活動ルームでは、ボランティアや「おもしろプロジェクト」を通じてActiveな学生の育成を支援している。Activeな学生は他学生に影響を及ぼすことが考えられ、Activeな学生の創出サイクルが加速していくだろう。結果として有意義な大学生活を送る学生の増加と、学生中心の大学、大学の活性化が見込まれる。

自主活動ルームによる大学活性



**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています**